

第10回 校長会議あいさつ

R8.1.6 稲垣

明けましておめでとうございます。本年も子どもたちのためにご尽力くださいますようお願いいたします。いよいよ3学期の始まりとなります。子どもたちを温かく笑顔で迎えらるるよう準備をお願いします。またこの3か月は、次の学年への階段を上る大切な時期です。卒業式に関わる指導を機に成長の節目となるような働きかけに努めてください。

本日は2点についてお話しします。

1点目は、市内小中・義務教育学校の今後についてです。本年度策定予定の「第3期西尾市まち・ひと・しごと創成総合戦略」の中で試算された、本市の将来人口推計が、大きな波紋を呼んでいます。あくまで現時点における、近年の動向に基づいた推計ですが、30年後の人口は、現在の約17万人から、約13万人に、15歳未満の年少人口は、約22,000人から、約6,000人になるだろうという驚くべき結果です。この推計を捉えて、議会でも市の進めるさまざまな事業計画について質問が寄せられました。市では既に「公共施設再配置等検討委員会」も設置されています。とりわけ公共施設の中で比重の最も大きい学校施設については、本年度末に出される中間答申によって、今後の方向性が示される予定となっています。

教育委員会では、学校施設長寿命化計画を見直すとともに、来年度には「学校規模適正化検討委員会」を創設し、学校配置の検討を開始していきます。大まかな手順としては、まず国の基準を参考に、本市の学校教育の在り方を見据えて適正規模を設定し、基本方針を定めます。その上で、それぞれの学校や地域の実情を勘案し、地域の皆さんの理解が得られるように具体策を提案していく予定です。

2点目は、県立高等学校を取り巻く状況についてです。本年6月3日、県教育委員会では、第1回県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会が開催されました。そこでは、「愛知県の中学校卒業者数は、2025年3月時点で、69,816人だが、2038年には、50,523人となり、

19,293 人の減少が見込まれる。また、全県的に通信制高校進学者は増加傾向にあり、高等学校授業料無償化による私学志向も勘案すると、今後、県立高等学校への進学率向上は期待できない。このような状況を踏まえると、現状の学校数では、全県的に学校規模が小規模化して、1校当たりの生徒数や教員数が減少し、教育活動に支障を来す恐れがある。そこで、地域ごとの中学校卒業生徒数の推移や進路動向を総合的に勘案し、統合等による再編を進めていく」ことが確認されました。また、当日の協議を通して、「単に統廃合のみを目指すのではなく、県立高校の魅力化も柱として進めるべき」という共通理解にも至りました。

本市の中学校卒業生数を見てみると、本年度の約1,750人から、今後 15 年間に約800 人の減少が見込まれます。現在、市内の高等学校は、5 校いずれも、それぞれ特色を生かした学校経営がされておりますが、高校進学時の他市からの流入は、西尾高校以外は少なく、立地の不利や募集定員に足りていない高校もあるため、今後、市内の高校が学級減となったり、あるいは統廃合の対象となる可能性もあると思われます。教育委員会としては、適宜、本市の進路状況や地域事情を県教委に伝えていきますが、校長会においても、この県立高校の動向を注視し、進路指導に配慮していただきたいと思います。